

細胞死（アポトーシス）と癌化、癌治療の接点

所属機関 (財) 佐々木研究所
研究者名 橋本 嘉幸

2001 (平成 13) 年度以前の助成研究者については、研究報告書全文に関する公開の許諾について明確になっていなかったため、助成研究者の皆様に対し、大学等への配布及び当財団ウェブサイトでの公開について許諾をお願い致しましたが、許諾が得られなかったため、当財団が助成対象とした研究の目的 (または一部概要) のみ下記に記載し、研究報告書については非公開とさせていただきます。

(研究の概要)

生体における細胞死は個体発生、成熟、恒常性維持などに大きな役割を演じているが、その細胞死は細胞核及び核 DNA の特徴的な断片化を伴うアポトーシス死であることが知られている。癌に関しても、発癌過程における前癌細胞の一部がアポトーシスで死滅し、残存したアポトーシス抵抗性の細胞がさらに悪性変異により癌へと移行することや、放射線や抗癌剤による癌細胞死の多くはアポトーシスによることも示されている。しかし、これらの場合における癌細胞のアポトーシス誘導に関しては、その分子機構や調節などにおいて未知の点が多い。

本研究はアポトーシスと癌化、癌治療の接点を探り、新しい方向での癌予防法及び抗癌剤の開発に資することを目的とする。